



2015年5月11日

2015年末に迫る ASEAN 経済共同体発足

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 上席研究員 加藤 淳

2015 年末、GDP2.5 兆ドル、人口 6.2 億人からなる巨大経済圏 ASEAN 経済共同体 (AEC : ASEAN Economic Community) が発足する。これにより、ASEAN は自由貿易地域 (AFTA) から、モノ、サービス、投資、熟練労働力の自由な移動、さらに資本のより自由な移動が行われる地域へと統合が深化する。当初 2020 年を AEC 発足の目標年としていたが、中国やインドとのグローバル競争を意識して計画を前倒した経緯があり、ASEAN 各国はこれまで AEC ブループリントと呼ばれる工程表に則り、計画的に統合作業を進めてきた。2015 年末の期限が迫る中、このところ作業の進捗は必ずしも順調ではないが、たとえ作業の一部に遅延があっても、2015 年末に AEC は発足する。

AEC は経済共同体の先例である EU とはかなり異なる。AEC では、各国の国内法が優先され、EU のように超国家的な機能は設けない。各国の国内事情は不干渉が原則であり、通貨統合の計画も今のところない。こうした背景には、経済発展水準や法制度・社会基盤整備などの事業環境水準において、EU より大きな構成国間格差の存在がある。

統合作業にて目指すものは、ASEAN 先行加盟国では多くが実現済である一方、2016 年以降も統合作業は続く。その見地からは「2015 年末」にあまり大きな意味はない。2018 年に後発加盟国の全ての関税撤廃、2020 年に金融サービス自由化が予定される。

AEC 発足による地域統合深化の結果、ASEAN は消費市場としても生産拠点としても一段と魅力を増す。EU が東欧に拡大した 2004 年前後に東欧の経済発展に弾みがついた。この例から見れば ASEAN を一体的に捉えることで、ラオス、ミャンマー、カンボジアといったこれまであまり注目されなかった市場にも域内分業が進み、その結果、ASEAN 全体の潜在成長率の底上げが期待される。

ASEAN各国統計(2014年IMF予測)

| | 名目GDP (億ドル) | 人口 (万人) | 1人当たりGDP (ドル) | 成長率 (%) | ASEAN加盟 (年) | WTO加盟 (年) |
|---------|----------------|------------|------------------|------------|----------------|--------------|
| シンガポール | 3,081 | 547 | 56,319 | 2.9 | 1967 | 1995 |
| マレーシア | 3,269 | 3,026 | 10,804 | 6.0 | 1967 | 1995 |
| タイ | 3,738 | 6,866 | 5,445 | 0.7 | 1967 | 1995 |
| インドネシア | 8,886 | 25,149 | 3,534 | 5.0 | 1967 | 1995 |
| フィリピン | 2,849 | 9,943 | 2,865 | 6.1 | 1967 | 1995 |
| ブルネイ | 151 | 41 | 36,607 | ▲ 0.7 | 1984 | 1995 |
| ベトナム | 1,860 | 9,063 | 2,053 | 6.0 | 1995 | 2007 |
| ラオス | 117 | 690 | 1,693 | 7.4 | 1997 | 2013 |
| ミャンマー | 628 | 5,142 | 1,221 | 7.7 | 1997 | 1995 |
| カンボジア | 166 | 1,531 | 1,081 | 7.0 | 1999 | 2004 |
| ASEAN全体 | 24,745 | 61,999 | 3,991 | 4.5 | | |

(出所)IMF World Economic Outlook Database April 2015より筆者作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。